

助成事業実施報告書

団体名 NPO法人 森の包括支援センター

代表者・役職名 氏名 園田安男(代表理事)

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

里山冒険村活動

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東京・西多摩地域の森林や里山環境の20年後を担う人材を育成する。青少年が森を駆け回り、自然に鍛えられ、森の活動を通して、自分を守り、また、地域社会に貢献できる人を育む。そして、この過程で様々な団体の森の事業をマネジメントできる人材を育成することである。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

近年、どこでも、いつでも災害が発生している。東京にあっては首都直下型地震、南海トラフ地震が高い確率で起こりうるといわれている。しかし、何より被害に遇うであろう青少年に生き抜こうとする意欲と能力を育てていく活動が必要である。特に「泥水を吸ってでも生き抜く」という生きる意欲、そして、災害にあっても食料や水、エネルギーを自給できる備えが必要である。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- 1) 冒険活動をする・毎月、1度、祝日を使つての冒険村活動 木登りや野猿、猿飛などの技を覚える。
- 2) 食料を自給する・保存できる食料を自給する。田んぼでコメ作り、畑で芋づくり。
- 3) 水を確保する。古い井戸を生かす。井戸を掘る。水を浄化できる。
- 4) 火をコントロールできる。どこでも火が起こせて、煮炊きができるようにする。
- 5) 煮炊きに必要な土器が作れるようにする。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

- 1) プロジェクトの結果:1年間を通して、ほぼ毎月1度、10家族程度の親子参加で実施
- 2) プロジェクトの成果:参加者が互いの技量を理解し、交流と活動を通して、「助け合うことの実践」を学んでいる。
- 3) プロジェクトの効果:まだ社会的影響を与えている段階ではないが、災害に耐える、災害は協力が重要であることは参加者、スタッフともども学んでいる。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

この活動は限定された地域的課題ではなく、災害が日本のどこでもありうる状態である限り、さらに広げていく必要がある。今は、西多摩郡日の出町の拠点から3時間以内で行ける場所で、活動を広げている。東山梨市でも森林活動や果樹支援活動を通して、さらに拠点施設も確保できた。今後は、長野県下伊那に広げようとしている。課題としては、指導員の能力、技術を上げること。特に特定の技術だけでなく、「なんでもできる能力」ある指導員が必要。

7. 参考資料

実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度

参考資料あり・特になし

7. 参考資料

◆野猿遊び 2019.04.29／2019.11.23



滑空 1



滑空2

◆田植え 2019.06.09



田植え1



雨除けしつつの田植え

◆井戸掘り 2019.07.15



挿入する管



水のくみ上げ

7. 参考資料

◆火起こし 2019.08.13



虫眼鏡で火起こし



ドラム缶風呂の火の管理

◆土器づくり 2019.11.24/2020.01.13



形づくり



素焼き中

◆パンづくり 2020.02.09



パンづくり講義



パンを焼く

7. 参考資料

◆危険木 伐倒作業（4本の伐倒のから）2019.09.25



伐倒準備



受け口



伐倒途中



伐倒後